

第44回全日本バトントワリング選手権東北支部大会

2019年WBTFインターナショナルカップ国内選考会東北支部予選

【部門別規定】



- スリーバトン
- アーティスティックトワール
- アーティスティックペア
- アーティスティックグループ

※日本バトン協会HP等で公開される本予選にかかわる規定に変更があった場合、この規定の内容も同様に変更します。

《2019年WBTFインターナショナルカップ国内選考会東北支部予選》

1 部門に関する規定

- (1) スリーバトン、アーティスティックトワール、アーティスティックペア
アーティスティックグループ

年齢及び性別は次の通りとする

【女子】

- ① ジュニアⅠ 2005年1月1日～2007年 4月 1日 ※12歳～14歳
- ② ジュニアⅡ 2002年1月1日～2004年12月31日 ※15歳～17歳
- ③ シニア 1998年1月1日～2001年12月31日 ※18歳～21歳
- ④ アダルト ～1997年12月31日 ※22歳以上

【男子】

- ① ジュニア 2002年1月1日～2007年 4月 1日 ※12歳～17歳
- ② シニア ～2001年12月31日 ※18歳以上

※2019年12月31日時点の年齢。

※全日本選手権6種目とは年齢区分が異なります。

※日本代表に選考される女子ジュニアⅠ部門の選手は小学生を除く12歳以上とする。

※男子18歳以上はすべてシニア部門となる。

(2) 実施種目

種目	年齢/部門
3バトン	女子ジュニアⅠ、女子ジュニアⅡ、女子シニア、女子アダルト 男子ジュニア、男子シニア
アーティスティックトワール	女子ジュニアⅠ、女子ジュニアⅡ、女子シニア、女子アダルト 男子ジュニア、男子シニア
アーティスティックペア	ジュニア、シニア、アダルト
アーティスティックグループ	※現在、本部に確認中のため出場を希望する際には事務局に確認してください。

2 選考に関する規定

(1) スリーバトン

第44回全日本バトントワリング選手権東北支部大会出場者で、2019年WBTFインターナショナルカップ国内選考会予選（同時審査）にエントリーしている選手の中から、次の手順により選出する。

【第44回全日本バトントワリング選手権東北支部大会同部門の、決勝の得点で集計する】

（決勝に進出できなかった場合、準決勝の得点で集計する）

(2) アーティスティックトワール/アーティスティックペア

ア 審査委員長、審査員、審判員の人数ならびに役割は次の通りとする。

- ① 審査委員長は1名とし、審査の円滑な遂行を統括する。
- ② 審査員 2名以上、5名以内

イ 選考は次の通りとする。

※ドロップペナルティは行わず、各審査員が総合的に評価して採点する。

- ① 10点法（少数第2位まで）により採点し、得点合計の高い方を上位とする。
- ② 同点のみ、審査員の投票により決定する。

(3) アーティスティックグループ

ア 審査委員長、審査員、審判員の人数ならびに役割は次の通りとする。

- ①審査委員長は1名とし、審査の円滑な遂行を統括する。
- ②審査員 2名以上、7名以内
- ③審判員 1名以上

イ 選考は次の通りとする。

※ドロップペナルティは行わず、各審査員が総合的に評価して採点する。

- ①100点法（少数第1位まで）により採点し、得点合計の高い方を上位とする。
- ②違反があった場合、計時／ペナルティシートにて警告するが減点はしない。
- ③同点のみ、審査員の投票により決定する。

3 コスチュームに関する規定

(1) スリーバトン

自由（女子はパンツスタイル不可）

(2) アーティスティックトワール／アーティスティックペア／アーティスティックグループ
スポーツ競技であることを前提に、コスチュームに関する規定は設けない。

4 バトン、その他に関する規定

- (1) ボールとティップは新しいものを使用すること。演技前にバトンのチェックを行う。
- (2) バトンのシャフトはどのような色を使用しても良い。
- (3) バトンのシャフトに貼るテープはどのような色を使用しても良い。グリップテープはシャフトの1/2をカバーすることが出来、センターから同時に巻くこと。グリップテープ以外のアタッチメントを付けてはならない。
- (4) 演技スペースヘタオル・パウダー等バトン以外を持ち込んで서는ならない。
- (5) 演技中の怪我のための包帯は可。
- (6) 必要ならばメガネは可。サングラス・光りものによる顔の装飾、ピアス、アクセサリ類は全て禁止する。
- (7) 付け爪、マニキュア等、爪の装飾は全て禁止する。
- (8) スポーツ競技であることを前提に、適度なメイクアップは良い。装飾（顔に絵を描いたりすること）は禁止する。

5 競技におけるアクシデントに関する規定

大会期間中のアクシデント（体調不良、怪我・演技中にバトンが折れる）について再演技の判断は、団体責任者・本人・審査委員長・実行委員長が協議し決定をする。再演技を行った場合は、再演技の採点を有効とする。ただし、再演技を行わなかった場合は、演技をした所までを採点対象とする。選手が自分の演技時間に出遅れ、途中から演技を行った場合は演技を行ったところを採点対象とする。演技コートにいない場合は棄権とみなす。

6 著作権について

アーティスティックグループ

※大会参加における著作権は、著作権法に基づきこれを遵守すること。

(1) 使用する音楽の著作権について

使用曲には音楽著作権使用許諾の申請が必要です。

- ①使用曲の音源（全曲）については、各団体の責任において、著作権を持っている出版元に、音源使用許諾を受けること。
- ②許諾が下りるまでに日数がかかる場合があります。ご注意ください。
- ③自作曲の場合は適用除外となります。

(2) 大会参加手続に関する提出書類

「音楽著作権使用許諾確認書」の提出

- ①条件無しで許諾された

※版元より出される確認書の写しまたは各団体で作成した確認書を添付。

- ②条件ありで許諾された（無料）
※版元より出される許諾を証明する書類の写しを添付。
- ③条件ありで許諾された（有料）
※版元より出される許諾を証明する書類の写し及び領収書・振込控え等（コピー可）を添付すること。
- ④許諾の必要がない（自作曲等）
※添付書類の必要なし。
尚、「各団体で作成した確認書」又は「著作権を所有している団体で公式の許諾様式が無い場合」には以下を明記の上、作成し提出して下さい（書式随意）。
 - ①著作権を所有する正式団体名
 - ②著作権を所有する団体の住所
 - ③著作権を所有する団体の電話番号／メールアドレス
 - ④担当者
 - ⑤許諾に関する対応をされた期日

種目別審査規定

1 スリーバトン

演技に関する規定、審査内容とも第44回全日本バトントワーリング選手権東北支部大会と同様とする。

2 アーティスティックトワール

(1) 演技に関する規定

- ①演技人数 1名
- ②演技に使用するバトン レギュラーバトン1本
- ③演技スペース 横12m×縦6mの広さを目安とする。
演技途中、境界線を越してしまった場合、演技パターン、空間の利用の仕方等により得点を加味することがある。
- ④演技曲（時間） 課題曲（約1分44秒）

(2) 審査内容

- ①技術
 - ア) テクニック
 - イ) スピード
 - ウ) 3モード（エーリアル・ロール・コンタクトマテリアル）のバラエティー・ディフィカルティー
 - エ) ボディーワークのバラエティー・ディフィカルティー
 - オ) ディフィカルティー
 - カ) クリアネス&シュアネス
- ②芸術
 - ア) ジェネラルコンテンツ
 - イ) ビジュアルミュージカルティー
 - ウ) 空間の利用度
 - エ) チェンジオブペース
 - オ) スキルの要求度
 - カ) 演技の優秀さ
 - キ) 正確さ
 - ク) エンターテインメントの価値／プロフェッショナリズム

3 アーティスティックペア

(1) 演技に関する規定

- ①演技人数 2名
- ②演技に使用するバトン レギュラーバトン2本（各自1本）
- ③演技スペース 横12m×縦6mの広さを目安とする。
演技途中、境界線を越してしまった場合、演技パターン、空間の利用の仕方等により得点を加味することがある。
- ④演技曲（時間） 課題曲（約1分44秒）

(2) 審査内容

①内容

- ア) バトンとボディのバラエティー・ディフィカルティー
- イ) エクスチェンジ
- ウ) 移動しながらのバトントワリング
- エ) 両手使い

②実施

- ア) なめらかさと流れ
- イ) 音楽との関わりでの早さ
- ウ) ボディポジションの均一性／トスの高さ、回転、リリース&キャッチ
- エ) バトンとボディの正確な技術
- オ) ペアワーク

③全体的効果

- ア) 音楽の解釈とビジュアルミュージカルティー
- イ) 時間と空間の利用
- ウ) ステージング
- エ) 一貫性と論理的な展開
- オ) エンターテインメントの価値
- カ) 表情と身仕舞い
- キ) プロフェッショナリズム (リカバリー能力、ペアの責任)

4 アーティスティックグループ

(1) 演技に関する規定

- ①演技人数 10名以上
- ②演技に使用するバトン レギュラーバトン (各自1本)
- ③演技スペース 横25m×縦15mの広さを目安とし、競技フロアは枠を取り、□の各ライン中央に印を付ける。
演技途中、境界線を越してしまった場合、演技パターン、空間の利用仕方等により得点を加味することがある。
- ④演技曲 (時間) 自由曲
グループの音楽は各参加者が選択し、CDにて事前に提出すること。
演技曲のスタート (演技開始) とストップ (演技終了) の合図は、演技者が演技スペース内で行うか、又は付添者が音響席にて行うこと。
曲の長さ (計時) は、音楽の第一音より、最終音までとする。
音楽の第一音以前に演技開始のための合図音 (1秒以内) を入れても良いが、計時には含めない。3分以上3分30秒以内 (過不足10秒可) とする。
- ⑤入退場について 原則として、演技者は、チーム名をアナウンスされてから審査員より見て、右側より入場し、ポジション取りを行い演技を始め、演技終了後審査員より見て、右側より退場すること。入退場は、曲 (音楽) 無しで行うこと。

(2) 審査内容

①全体的効果 40%

- ア) 最重要点は、完成度の高さ
- イ) 音楽を生かしたキャラクター、一人一人の役割、個性、グループのスタイル
- ウ) 論理性や信頼性に基づく、優秀な演技
- エ) グループならではの幅広く多彩な効果、引き付ける魅力
- オ) 全体を通してムード、芸術性、視聴覚の一致の維持
- カ) フロアの利用、列、タイミング、空間の利用

② コレオグラフィー 3.0%

- ア) プログラムコンセプトの優秀さ (テーマの展開)
- イ) 作品のドラマチックさと、計算されたバトン・ボディワーク・ステージング・フォーメーションの展開の質
- ウ) 時間やレイヤー (いくつかのパーツの重なりや層) を用いたデザインと構成の質

③ バトン 1.5%

- ア) 演技者のレベルに見合ったトワーリング素材
- イ) バトンとボディワークのコンビネーション
- ウ) 全員によるバトン熟練度の達成
- エ) 素材の十分なトレーニング
- オ) マスター度

④ ボディ 1.5%

- ア) 演技者のレベルに見合ったボディワーク素材
- イ) ボディワークとバトンのコンビネーション
- ウ) 全員によるボディワーク熟練度の達成
- エ) 素材の十分なトレーニング
- オ) マスター度

5 技術内容の禁止事項

- ① スピン
 - ・ 1 スピン・・・リリース&レセプション、ボディも禁止事項
 - ・ 2 スピン・・・スタンダードリリースとレセプション (※1)
- ② エーリアル ジムナスティック
 - ・ 側宙・前宙のような空中動作は禁止
- ③ ステーションナリーコンプレックス&トラベリングコンプレックス
 - ・ トスの下で、メジャーボディムーブ (※2) は1回
 - ・ その際スタンダードリリース&スタンダードレセプション
 - ・ その他のボディの禁止事項なし
- ④ ダブルエレメント トリック
 - ・ トスを伴うダブル以上は禁止
- ⑤ ロール
 - ・ 1 コンティニューアスフロントネックロール (手の有無に関係なく禁止)
 - ・ フロントネックフィギュアエイトも禁止
 - ・ モンスターロール (パーシャル完成形も) 禁止
- ⑥ コンタクトマテリアル
 - ・ 禁止事項なし

※1

スタンダードリリースとは、右手と左手のバーティカルサムトス・バーティカルバックハンドトス・水平トス。

(スタンダードレセプションとは、バーティカル・水平トス右手左手キャッチと右手左手グラブ)

※2

メジャーボディムーブとは、イリュージョン・ウォークオーバー (前・後) ・リープやジャンプ・ソック・アラベスク・アチチュード・グランバットマン・ソデバスク・トワジュテ・カプリオーレで、約3拍又はそれ以上の拍数のもの。